

N E W S L E T T E R

第34回日本看護研究学会学術集会と地方会

お知らせ

園田学園女子大学 近田 敬子

平成20年8月、第34回の日本看護研究学会学術集会会長を経験させていただきました。看護に期待されている時代の要請を受けて、一步進めた内容で企画いたしました。大野かおり実行委員長をはじめとして、近隣大学の皆さまの協力を得て運営し、特に近畿・北陸圏からの大勢の参加者を迎えて、無事終了することができました。地方会の皆様には直接・間接に多大のご支援をいただきましたことを心より感謝申し上げます。

私は、日本看護研究学会の地方会とともに歩み、その中で育てられてきたといっても過言ではありません。近畿・北陸地方会（当初は中国・四国と共催）は、着実な活動は勿論ですが、古くより地元で開催される親学会との繋がりは強く、この度は、プレセッションを主催していただきました。実のところ、学会長はプログラムの妥

も学会当日まで脳裏にありました。そのために、プレセッションの流れで参加者の増加を期待したのも事実です。この期待の根拠は、平成2年の京都での学術集会に遡ります。その折も、プレセッションをしたのが地方会で、その結果、ロイ基金を構築し、地方会活動を安定させたことを実感しております。

この度の地方会事業においても一定の成果が得られ、近畿・北陸地方会が次なる発展をされようとしていると伺っております。学会活動における実質的な看護者としての資質の向上は、企画する者と参加する者との会員同士のかかわり合いにあると信じます。その中に、育つもの・育てられるものがあると言うのが、私の体験からの結論です。地方会の今後の発展を祈念いたします。

第22回 近畿・北陸地方会学術集会

日時：2009年3月15日（土）8:30～16:00

会場：京都橘大学

実行委員長：道重文子

テーマ：「看護研究を継続するための
マインドとスキル」

特別講演「論文を作成するために
必要な統計の基本」

シンポジウム「研究を継続するための
課題」

セミナー「英文抄録の書き方」



第34回日本看護研究学会学術集会 近畿北陸地方会企画プログラムプレカンファレンスセミナー

アクセプトされるための論文の書き方に参加して 滋賀県立大学 人間看護学部 古株 ひろみ

川口先生の講義は、楽しく受講しながら大切な視点を学ぶことができるので、8月19日の地方会主催のプレカンファレンスセミナーへの参加を楽しみにしていました。今回の講義も、実際の論文を用いて楽しく解りやすく解説頂き、会場も笑いに包まれながらあっという間に時間が過ぎていきました。講義では、原稿執筆要領を良く理解すること、研究の背景をしっかりと裏付けて論文を作成していくこと、そのためには、文献を十分に検討した上で「はじめに」をどう上手く書くが何よりも大切だということなど学ぶことも多く、特に「議論する相手は文献」という言葉は大変印象に残りました。

自分では、解っていたつもりでも実は出来ていないことを改めて思い知り、今一度文献を集め直そうと学会から帰って直ぐに文献検索に取りかかりました。何かやる気の源もこの講義に参加して得ることができたのではないかと考えています。

「Rejectされるもの」と思い、勇気を出して粘り強く論文作成に取り組むことができそうです。

このような会を企画して頂き本当にありがとうございました。



地方会20年度 事業内容

1. 第22回 近畿・北陸地方会学術集会開催予定
日時：2009年3月15日（土）8:30～16:00
2. 平成20年度総会開催予定：2009年3月29日

3. 第7回看護研究継続セミナー：2008年9月27日
第8回看護研究継続セミナー：2008年11月22日
4. ニュースレター第10号発行

「大学院進学の際機になった看護研究継続セミナー」

小島 賢子（吉備国際大学大学院 保健科学研究科）

私は、4年前に同僚に誘われ、京都で開催されました地方会主催の看護研究継続セミナーに参加しました。看護研究の進め方について近田敬子先生のご講演を聞かせて頂きました。その頃の私の生活は専門学校での教育と雑務に追われ、看護研究の入り口さえ遠い教員生活でした。しかし、先生の「看護の研究は研究のための研究ではなく、看護実践のためのものである」というお話に、看護研究を行うことの意義や研究を行う上での立ち位置を再確認することができました。また、西田直子先生、若村智子先生の助言を頂き、私も研究に取り組もうという勇気を持つことができました。特に、若村先生には、職場で始めた学習会の担当となって頂き、大変なご苦勞をおかけしたと思っています。この学習会で実習における学生の睡眠時間を調査した結果を研究にまとめ、第20回近畿北陸地方学術集会で発表しました。後に、研究結果をふまえて実習指導を行い、研究を教育実践に生かす体験ができました。私は研究の重要性を実感できたこと、自分の勉強不足を痛感していたことから、大学院にすすむ決断ができました。大学院は今年で終了ですが、全ては、あのセミナーから始まったかと思うと感謝の気持ちで一杯です。私

一人では看護研究の敷居の高さを打ち破れなかったと思います。今は、知識の探求という至福の時間を与えて頂いたことを感謝しています。

第8回看護研究継続セミナー

日時：2008年11月22日（土）

13:30～16:45（受付開始13:30～）

会場：高志（こし）会館、JR富山駅正面口より徒歩7分

内容：質的研究のまとめ方 上野栄一（福井大学）

演習を含んで、コンピュータを利用した質的研究方法のまとめ方についてわかりやすく解説。

申込：若村智子（京都大学医学部人間健康学科）

E-mail : wakamura@hs.med.kyoto-u.ac.jp

●本企画は、個人やグループの研究活動を支援するセミナーです。関心のある方は、上記までお申し込み下さい。

（11月中旬まで）



第7回セミナー実験の様子

第21回近畿・北陸地方学術集会を終えて

第21回実行委員長 上野栄一（福井大学医学部看護学科）

2008年3月29日（土）にJR福井駅隣接のAOSSA（アオッサ）で第21回近畿・北陸地方学術集会を無事に開催できましたこと、ここに深謝申し上げます。

学会参加者は、合計223名（職員、ボランティアを除く）を数えました。学会当日は、朝早くから多くの参加者においていただき、各会場とも、熱気あふれる討論が続きました。ポスターセッションでは、質問者と発表者の活発な意見交換がなされていました。ノートを片手に発表者の話す内容を一生懸命に書き取る参加者もおられました。シンポジウムでは、「看護研究成果を実践に活かす」というテーマのもと、私上野、川島和代氏、橘幸子氏、田村恵子氏の計4名の先生方による講演及び会場との質疑応答が活発になされました。座長の先生方には軽快なトークも交えてスムーズに進行をしていただきました。終了後、参加者の方から「研究に力を入れたい」、「これから研究成果をどう活かすか大変参考になりました」との感想をいただきました。大会前日の懇親会では、歌手の伊藤敏博氏と福井大学医学部管弦楽団を招いての演奏会を盛り込み、盛況の内に終わりました。

本学会の成功は、世話人会代表阿曾洋子先生をはじめ、世話人の先生方、事務局の方々、各府県看護協会の皆様、学会ボランティアの方々、そして何よりも会員の皆様の暖かいご支援の賜と存じ上げ、感謝申し上げます。最後に来年3月に京都で行われます第22回学術集会の成功をお祈り申し上げます。

ポスターセッション風景絵



事務局移転のお知らせ

事務局が2009年1月から下記に移転します。
地方会事務局代表：細田泰子（大阪府立大学看護学部）
〒583-8555 羽曳野市はびきの3丁目7-30
TEL 072-950-2111